

国定議員予算委員会で質疑

総務省関係と国交省関係

一二つの分科会で地元の課題

国定男人衆院議員(自民)の国会事務所によると、十六日に開かれた衆院予算委員会の第二分科会(総務省関係)と、同第八分科会(国土交通省関係)で国定衆院議員が質問に立ち、国道二八九号線八十里越区間について現況と今後の見通しや、供用前道路の弾力的な運用などについて質

問したのをはじめ、国道八号線栄拡幅(四車線化)、除排雪と既存の制度・支援スキームなど、市長時代の経験も例示しながら、地元の課題を中心に両省の見解などをたじた。

国道289号と八十里越

共用前道路の運用

両分科会とも持ち時議員の予算委での質疑代として、答弁の経緯は豊富だが、質問に立つという点では、まさにこの日がデビューと訴えた。

市長時代に代表世話人もなっており、全国五百二十四の市町村長で構成する「地方を守る会」の活動経験をバックに、防災力強化のため、地方整備局の人員を拡充する質問では、被災経験をもち市長



第八分科会

第八分科会で質問に立つ国定衆院議員
△写真▽国定議員国会事務所提供

る。にもかかわらず、整備局の人員は長年にわたり、縮減を余儀なくされ、四十歳以上の職員の割合が八割、二人以下の出張所が三割を超える事態となっており、大変憂慮している」などと訴え、同省の見解をたたいた。

見町と新潟県三条市は、発災時あるいは発災直後の国土交通省、とりわけ地方整備局は最も頼ることのできる存在と実感している。引き続き、供用前道路の弾力的な運用に